

入試直前! 三者面談で課題を解決してスッキリ!

イラスト◎高村あゆみ

最終的な志望校や受験スケジュールを決定する、12月以降の三者面談。そこでは、親子や先生との間で意見の食い違いなど課題が残るケースもある。そうした課題を解決するための、三者面談への事前準備や面談時の対処法について、高校の進路指導の先生方に教えていただいた。

大阪府・清風南海中学校・高等学校
宇田川 真 先生

が解説!



地歴・公民科教諭。同校にて20年以上担任を務め、東京大学・京都大学・大阪大学などに生徒を多数送り出している。卒業生との親交も大切にしている。教師としてのやりがいは、生徒たちが自分の進路を見つけ、成長して巣立っていく姿を見届けること。

課題1 大学の教育内容や研究実績よりもネームバリューやブランドを重視

保護者が納得できる知名度で、学力に見合う大学を探すのもひと苦労です。保護者にとってあまりなじみがなければ、いくら教育内容や研究実績が優れている大学でも、なかなか納得してもらえません。関関同立までしか受けないなど、“教育内容・研究実績 < 大学ブランド”を痛感することが多々あります。



視野を広げる時こそ、保護者の出番。知名度はなくても、「ご当地研究で高評価」「地域企業と密接に連携」「就職・資格取得に注力」など特色を出す大学も増えています。ブランドにこだわる気持ちもわかりますが、保護者の人生経験を活かして大学を研究し、子どもの選択肢を増やす助けになってください。



ブランド大学を受けたいなら
まずは実力を磨く!

総合大⇄単科大⇄公立大、
共学⇄女子大と視点を変えると
行きたい大学に出会えることも

課題2 子がやたら大都市圏の大学に行きたがる



保護者は自宅から通える大学に進学してほしいのですが、子どもは大都市圏に行きたがる場合があります。「とにかく東京」というケースが多く、学びの内容をよく調べもせず、に首都圏の大学を並べるなど決め方に軸がなく、もったいないと思うことがあります。



なぜその大学に行きたいのかを親子でしっかり話し合い、本気度を確認しておきましょう。特に首都圏での生活はお金がかかりますので、現実的に生活できるかどうかの判断は保護者でないとできません。首都圏に大学生の先輩がいるなら話を聞くといいでしょう。

親子で大学への本気度を確認め、
後腐れのない決断をする

夢があるのはいいこと。
でも、出資者である保護者には
きちんと了承をもらう

課題3 親が就職に有利な学部にこだわって誘導する

冬の三者面談でも学部が定まらないことがあります。保護者は就職に有利と考える学部へと誘導しますが、本人はやりたい学問と異なるため気が乗らず、平行線に…。保護者が子どもの進路に決定権を持とうとしても、実際に受験するのは本人です。

本人の希望が最優先。
保護者にしっかり意志を伝える

入学後に興味・適性を探りながら
所属学部を決められる大学を
選ぶのも手



保護者が薦める大学・学部と本人が行きたい大学・学部がなぜ一致しないのか、学びや就職など様々な観点から話し合いましょう。本人に信念があるのなら、口出しは無用です。4年・6年先は予測不能なのだから、人生は自分でつかみ取るべきです。



課題4 浪人の可能性を鑑みず、 実力以上の志望校を並べる

保護者は現役合格を希望していますが、子どもは先のことを考えず、実力以上の志望校を並べてくる場合があります。もっと成績が伸びるはずだと楽観的に志望校対策をしてきたものの、12月になっても成績が思ったほど伸びず、浪人の危機に…。



↓ **これでスッキリ!**

10・11月の模試結果が目標に達していなくても、現役生は入試直前まで伸びるケースが見られます。そのため、実力相応校を含めて併願校を決めたうえで、第1志望校に不合格の場合、浪人するかどうかは面談までに親子で決めておき、面談で先生に相談しましょう。

● 現役生は入試本番まで伸びる! 最後まで走り切ることが大切

● 浪人して伸びるタイプと伸びないタイプがいるのも事実。浪人の可否は親子で熟考する

課題5 入試制度や学部などの 初歩的な質問に終始

経済学部と経営学部の違いは何ですか?



最終面談でも、「国公立大2次試験の前期・後期日程の出願期間は同じですか」「経済学部と経営学部の違いは何ですか」など、初歩的な質問をされることがあります。その場合はイチから説明しますが、その分、最終的な志望校について話し合う時間が削られます。

↓ **これでスッキリ!**

● 三者面談までに入試制度など最低限の知識は把握しておく

● 三者面談では最終的な志望校についてしっかりと話し合い、合格に向けて戦略を練る

保護者がインターネットなどで調べられることもたくさんあります。三者面談は生徒にとっても貴重な時間。保護者が受験マニアになる必要はありませんが、受験スケジュールなどの入試制度や受験料・学費、学部などの基礎知識は把握しておいてください。

入試直前! 三者面談で課題を解決してスッキリ!

大阪府・桃山学院高等学校
進路指導部

嶋司 晃大 先生

が解説!



数学科主任。生徒たちが失敗を恐れず、何事にも全力でチャレンジする楽しさを実感できるよう、工夫をこらした指導に力を入れている。「卒業生講演会」や「学級通信」などを通じて、生徒たちが大学での学びに触れて視野を広げる機会も与えている。

課題6 友人に流されて、 実力以上の私立大のみ併願

周りの友人が受験するからと、自分の実力以上の私立大のみを併願先に選んでしまうというケースです。こうなると第1志望校に合格できなかった場合に進路確保が難しくなり、保護者が不安を抱える状況になります。



↓ **これでスッキリ!**

三者面談で先生に相談して、模試の成績をもとに「確実に合格できる安全校」「実力相応校」「チャレンジ校」を提案してもらいましょう。そして、受験生本人の価値観や希望をもとに受験校を選び直すことが大切です。

● 周りに左右されず、自分基準で受験を考える

● 模試の成績をもとに自分の価値観、希望を考慮して、納得のいく併願パターンを検討

課題7 国公立大は前期日程のみで、 中期・後期日程を視野に入れない



国公立大は第1志望である前期日程のことしか考えず、中期・後期日程を視野に入れない人がいます。保護者としては、万一に備えて中期・後期日程の受験も検討してほしいと、意見のすれ違いが生じてしまいます。

↓ **これでスッキリ!**

● 国公立大全体の受験プランを親子で共有する意識を持つ

● 前期日程はチャレンジ校、中期・後期日程は実力相応校または合格確保校を選ぶ

国公立大の中期・後期日程についても興味・関心がある分野を学べる大学を探しましょう。保護者も大学のカリキュラムや施設・立地などを調べておくと、三者面談で前期・中期・後期日程の大学を絞りやすくなります。

課題8 親が受験校にあれこれ口を出しすぎる

この時期になって、保護者が「受験校は私立大ではなく地元の国公立大」などとレベルやエリアを制限し始めることがあります。受験する本人にとっては、「自分の考えを理解してもらえない」という不満が蓄積し、進路以外の会話でも対立が起こりやすくなります。



親子で揉めると、子どものモチベーションが大きくダウンする恐れがあります。面談前に親子で「譲れないこと」や「大切にしたいこと」を話し合っておきましょう。建設的な話し合いをして面談に臨めば、親子で納得のいく受験校を決められるはずです。



家庭内での建設的な話し合いが子どもの安心感を生む

優先順位を明確にすることで、親子で納得のいく受験校を選ぶことができる

課題9 受験校をあまり真剣に考えず、本人にこだわりがない



受験の機会を、自分の目標や夢を考えるきっかけに

家庭と学校が一体となって、受験生本人の進路決定をサポートしていくことが大切

子どもが受験を他人事のように捉え、真剣に考えていない場合があります。受験校を「誰かが決めてくれる」と思っており、自分の希望やこだわりがほとんどないため受験校が決まりません。当然、受験プランも決定できないため、保護者も困ってしまいます。



子どもが受験を主体的に考えられるよう、学校での進路指導はもちろんですが、家庭でも大学進学の意味や将来の目標について話し合うことが大切です。保護者は模試の結果や大学情報を示しながら、本人が自分で受験校を検討し決定できる環境を整えてください。

課題10 受験生は家庭でイライラ、張り詰めた雰囲気



保護者は家庭での子どもの様子を具体的に整理し、面談で共有する

面談で得たアドバイスの実践が、家庭内での課題解決、そして雰囲気の改善につながる

受験生であるということで、家でわがままを言ったり、神経質になったりする場面が増えて、些細なことで対立してしまうことがあります。その結果、家庭内に必要以上の緊張感が漂い、会話がぎくしゃくして…このような雰囲気は三者面談でも伝わってきます。



面談前に、保護者は家庭での子どもの様子を具体的に整理しておき、面談で共有しましょう。生活リズムや学習環境の課題、子ども本人の気持ちや不安もあわせて伝えることで的確なアドバイスを得られ、家庭内での雰囲気も改善されていくはずです。

課題11 共通テストで失敗した場合を想定し、下宿の可否で大揉め

共通テストで目標点を取らなかった場合の進路を考えた際に、今頃になって下宿の可否について親子が揉めることがあります。子どもは下宿してもよいと考える一方で、保護者は安心して通える地元の大学への進学を望むなど、意見が分かれます。



下宿の可否については、早いうちに親子で将来の目標や生活の優先順位を整理し、検討しておきましょう。大学の生活環境や学びたい内容、経済面などを親子で話し合ったうえで面談に臨むことで、受験後の不安を軽減し、納得のいく選択肢を見つけやすくなります。

親子で将来の目標や生活の優先順位について話し合う

大学の生活環境や学びたい内容、経済面などから検討することで、安心して受験に挑めることに

